

仁科川水系の特徴

静岡県河川審議会
(平成28年度第1回)
仁科・宇久須・安良里-資料-5-1

治水

- 下流域で河川を横断する国道136号は、地域の主要幹線道路であるとともに災害時における緊急輸送路であり、水害発生等に伴う交通の遮断による影響は大きい。
- 過去の洪水被害を契機に、一定計画に基づく河川整備や砂防堰堤の設置による土砂流出対策が行われているが、最下流部における現況流下能力は年超過確率1/2に満たない。
- 近年でも、一部堤防越水の被害が発生するなど、下流部は築堤区間で背後に人家や資産を抱えることから、洪水時の氾濫リスクが高い。
- 津波対策として河川堤防の嵩上げが行われているが、第4次地震被害想定は、現在の施設高を上回る津波高となっており、新たな津波対策が必要。
- 観光客も多く少子高齢化が進行していることから、災害時の要配慮者に対応した適切な避難支援等が重要である。

環境

- 西伊豆町では、合併処理浄化槽の普及促進に努めており、仁科川における水質はAA類型を概ね満足している。
- 豊かな水量、清らかな流れは西伊豆でアユが上る河川として有名であり、上流域から河口域にかけてそれぞれの生息環境に適した多様な種が確認されている。

利用

- 豊かな水量を活かして、水力発電や農業用水として利用されており、地域の生活や産業の発展に寄与している。
- 河川空間は、地域住民にとって散策や釣り、川遊び等、日常の身近な空間として、住民との関わりが深く、河川周辺の豊かな自然環境は重要な観光資源である。

宇久須川水系の特徴

静岡県河川審議会
(平成28年度第1回)
仁科・宇久須・安良里-資料-5-2

治水

- 下流域で河川を横断する国道136号は、地域の主要幹線道路であるとともに災害時における緊急輸送路であり、水害発生等に伴う交通の遮断による影響は大きい。
- 山地部では、過去から豪雨時に風化した地盤の浸食に伴う多量の土砂流出が発生し、谷底平野では河道埋塞などによる被害が発生している。
- これまで、災害関連事業等による河川整備により、概ね年超過確率1/30に対応した流下断面が確保されているが、中下流部は堤防天端と背後地盤の差が大きく、洪水発生時において破堤した場合の災害リスクが高い。
- 津波対策として河川堤防の嵩上げが行われているが、第4次地震被害想定は、現在の施設高を上回る津波高となっており、新たな津波対策が必要。
- 観光客も多く少子高齢化が進行していることから、災害時の要配慮者に対応した適切な避難支援等が重要である。

環境

- 西伊豆町では、合併処理浄化槽の普及促進に努めており、河川の水質はAA類型を概ね満足している。
- 上流域から河口域にかけてそれぞれの生息環境に適した生物が確認されている。

利用

- 地域住民にとって日常の身近な空間として、散策等に河川空間が利用されている。
- リバーフレンドシップ制度を活用した地域の美化活動が実施されている。

安良里浜川水系の特徴

静岡県河川審議会
(平成28年度第1回)
仁科・宇久須・安良里-資料-5-3

治水

- 下流域で河川を横断する国道136号は、地域の主要幹線道路であるとともに災害時における緊急輸送路であり、水害発生等に伴う交通の遮断による影響は大きい。
- 山地部では、過去から豪雨時に風化した地盤の浸食に伴う多量の土砂流出が発生し、谷底平野では河道埋塞などによる被害が発生している。
- 過去には、災害復旧事業等による河川整備とともに、砂防堰堤の設置や流路工の整備など土砂流出対策が行われてきたが、住宅が近接する下流部の現況流下能力は上下流と比較して小さく、年超過確率1/5を満足していない区間もある。
- 下流部において一部築堤区間があり、背後地盤が低いことから、洪水時の氾濫リスクが高い。
- 安良里浜川では、河口部に津波対策水門が設置されているが、第4次地震被害想定は、現在の施設高を上回る津波高となっており、新たな津波対策が必要。

環境

- これまでに水質調査は実施されていないが、水の澱み・濁り等は見られない。
- 中流域から下流域にかけて、土砂流出対策として三面張りの護岸整備が行われているが、限られた生息環境においても、そこに適応した種の生息が確認されている。

利用

- 安良里浜川の中下流部では、沿川の集落と川との距離が近く、地域の営みの中に川が流れている。